

1 基本構想の位置づけ

築 40 年を迎える伊東図書館は開架・学習スペースや駐車場の不足等の課題を抱えており、バリアフリーへの対応も必要であることから、高度な図書館サービスや I C T の活用を通じた新たなサービスを提供し、情報発信機能も備える新図書館の建設を必要としています。また、多様化・高度化する利用者ニーズに対応するとともに、コミュニティ醸成の場を提供するため、図書館機能と生涯学習センター機能を併せ持つ施設として、伊東図書館及び伊東市生涯学習センター中央会館の移転を検討しています。

基本計画策定等に先立ち、新図書館のコンセプト・サービスや必要諸室、ゾーニング等を検討するとともに、市民が「未来を拓く」ことの出来る図書館像を描けるよう、将来的な運営も見据えた基本構想を策定します。

2 前提条件の整理

伊東市の概要

- ◆ 全国有数の湧出量を誇る温泉地で、自然・文化資源等にも恵まれており、観光を基幹産業として発展
- ◆ 人口は平成 22 年から減少が続いており、平成 30 年 12 月には 69,215 人、中心市街地や市南部の八幡野地区等で人口密度が高い傾向
- ◆ 観光産業が活発で、第三次産業従事者が 80.3%を占めており、観光客数も宿泊者を中心に増加傾向

市立図書館等における現状

伊東図書館

- ◆ 大正 4 年 11 月に開設した伊東町立図書館を前身とし、現在は伊東市生涯学習センター中央会館と併設の施設で、開架書架や閲覧席（108 席）を 2 階に設置
- ◆ 伊東市出身の文学者「木下杢太郎」や「温泉」等に関する資料を重点的に収蔵し、「郷土資料コーナー」を展開しているほか、児童向けにも地域伝承の独自資料の収集に努め、伊東市ならではの図書館サービスを提供
- ◆ 平成 31 年 4 月 1 日現在、190,120 点の資料を所蔵しており、児童書の割合は 21.2%
- ◆ 平成 30 年度の利用状況を平成 26 年度と比較すると、登録者数が増加した一方、貸出数・実利用人数は減少
- ◆ 予約数は約 1.5 倍に増加しており、過半数が W e b による予約
- ◆ ブックスタートや読み聞かせ等の児童サービスに積極的に取り組んでいるほか、一般・児童別の特集コーナーや障がい者サービスなども提供
- ◆ 書架が高く、バリアフリーの対応も十分ではなく、「郷土資料コーナー」のある郷土資料室も奥まっけて利用しにくい状況
- ◆ 生涯学習センター中央会館と入り口が分かれているため、相互利用や回遊性による新たな利用が難しい状況
- ◆ 駐車台数が 22 台と少ないことなどから、約 400m離れたマンダリンホテル跡地にも駐車場（56 台）を仮設しているが、利便性に課題

市全体への図書館サービス

- ◆ 大原児童図書館や移動図書館（愛称：ともだち号）を運営し、市内全域に図書館サービスを提供

表 施設概要

項目	内容
開館	昭和 55 年 11 月 1 日
所在地	音無町 5 番 14 号
併設施設	伊東市生涯学習センター中央会館
構造	4 階建て
面積	2,713 ㎡(うち図書館：954 ㎡)
図書館配置	1 階：閉架書庫、移動図書館専用車庫、書庫 2 階：開架書架、閲覧スペース（108 席）
蔵書	190,120 冊（H31 年 4 月 1 日現在）

表 利用状況

項目	H26 年度	H30 年度 (H26 年度比)
貸出数	186,847 冊	174,860 冊 (93.6%)
登録者数	29,706 人	33,728 人 (113.5%)
実利用者数	6,488 人	6,031 人 (93.0%)
予約数	10,405 冊	15,464 冊 (148.6%)

望ましい基準及び同規模自治体との比較

- ◆ 延床面積や蔵書冊数、貸出数等が「図書館の設置及び運営上の望ましい基準」や同規模13市（人口7万人前後）の平均を大幅に下回ることから、人口に対して施設規模が十分でない状況

表 望ましい基準及び同規模自治体との比較

項目	人口	延床面積	蔵書冊数	貸出数
伊東図書館	69,597人	954㎡	184,728冊	199,234冊
望ましい基準（～8万人）	67,946人	4,097㎡	382,926冊	819,141冊
同規模自治体平均	70,532人	2,794㎡	270,493冊	370,795冊

表 建設予定地概要

項目	内容
地番	桜木町二丁目672番4 ほか10筆
敷地面積	4,029.88㎡
用途地域等の制限	<ul style="list-style-type: none"> ・ 近隣商業地域 ・ 建ぺい率 80% ・ 容積率 300% ・ 第3種高度地区 ・ 準防火地域 ・ 日影規制 なし

敷地条件

- ◆ 新図書館を建設予定のマンダリンホテル跡地は、伊東・南伊東駅からそれぞれ1km前後離れており、200m離れた最寄りのバス停には10路線が停車
- ◆ 津波浸水想定区域（0.3m～2.0m）及び洪水浸水想定区域（1.0m～5.0m）に該当

3 課題

- ◆ 下表のとおり7つの観点から課題を整理

表 7つの観点による課題

項目	内容
① 伊東市全体の図書館サービス	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市街地への新図書館の整備に加え、伊豆高原駅周辺や市内他地域への図書館サービスの拡充 ・ 移動図書館サービスの拡充
② サービス面	<ul style="list-style-type: none"> ・ 利用減を解消するサービスや新規登録増加に向けた周知（中高生に魅力を感じてもらえる事業等） ・ 歴史、文化などの魅力発信や大規模イベント等のサービス拡充とそのためスペースの確保 ・ 交流スペース（カフェ等）の設置 ・ 伊東市総合計画が目指す「健康保養都市」を支援するサービスの提供
③ 蔵書面	<ul style="list-style-type: none"> ・ 27万冊以上の蔵書数の確保 ・ 中高生の利用が見込める蔵書の構築 ・ 伊東市の文化・歴史・観光等に関わる特色ある蔵書や独自資料の拡充及びICT活用による利用促進
④ 施設面	<ul style="list-style-type: none"> ・ 施設の老朽化やバリアフリーの観点から現代の社会情勢に対応した施設の整備 ・ 生涯学習センターとの融合による訪れやすさや回遊性の実現 ・ 学習席の拡充及びラウンジ機能を持つスペースの確保
⑤ 敷地面	<ul style="list-style-type: none"> ・ 貴重な資料の浸水防止 ・ 広場の設置 ・ 建設後の利用増を見込んだ規模で使いやすさを考慮した平地式やゆとりのある立体式の駐車場の整備
⑥ ICT等最新サービス	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生涯学習センターとの融合による効果を発揮するため、ICTタグシステムによる資料管理 ・ デジタルアーカイブ導入による貴重資料の公開や観光情報の発信
⑦ 新型コロナウイルス感染症等への対応	<ul style="list-style-type: none"> ・ 電子図書館等の非来館型サービスの導入により、利用時に来館・非来館の選択が可能な図書館サービスの提供 ・ 人が密集しない施設・空間づくり

4 市民の意向の調査

- ◆ 地域資料・漫画等の充実、ゲーム貸出等の新たなサービスの提供、ICT関連の充実、各世代向けスペースや多様な閲覧環境の充実、カフェ等の利便性の高い施設との併設等にニーズがあり、交流・くつろぎ等を目的としたスペースと静かな読書スペース等との住み分けも重視
- ◆ 市全体へのサービスとして、新たな返却ポスト・サテライト図書館の設置や民間連携、電子図書館の展開、積極的な情報発信等にもニーズ

表 ワークショップ結果（概要抜粋）

項目	内容
市民ワークショップ	第1回 8月30日 参加：市民35名 現図書館のよいところ ：児童サービスの充実、郷土資料の充実 等 改善が必要なところ ：駐車場の使いにくさ、バリアフリーの未対応、ICT関連の未整備、情報発信不足、市内全域サービスの不足、静かな雰囲気 等 新しく図書館に望むこと ：地域・視聴覚資料や漫画等の充実、ICT関連の充実、子どもが遊べるスペース、中高生向けの勉強スペース、くつろいだり自由に過ごしたりできる閲覧環境、カフェの併設 等
	第2回 10月18日 参加：市民34名 わたしの〇〇拠点でしたいこと、必要なもの ： 静かな読書スペース、郷土資料等を始めた図書館本来のスペース、街の活動拠点としてのスペース（活動、交流、創作、くつろぎ、出合い） 等
	第3回（書面開催） 12月14～24日 回答：市民30名 再度強調したい点 ：「静」「動」のスペース分け、障がい者への配慮 等 市全体のサービス網 ：返却ポスト・サテライト図書館の設置、移動図書館の拡充、民間図書館・カフェ等との連携、屋外型イベントの開催、シャトルバスの運行、電子図書館の展開、地域資料のデジタル化、SNS・アプリ等による情報発信 等
小学生ふるさと教室 9月19日 参加：小学6年生18名	現図書館のよいところ ：児童サービスの充実 等 現図書館の悪いところ ：バリアフリーへの未対応、施設の老朽化 等 これからの図書館に必要なもの ：若者向け資料の充実、ゲーム等の貸出、映画館等の併設 等

5 コンセプト、機能・サービス、蔵書目標の検討

7つの拡充機能・サービス案

- ◆ 各種課題やワークショップの結果に加え、これまでに開催した「図書館・文化ホール建設に向けた検討会」「地域タウンミーティング」「未来ビジョン会議」等の意見も踏まえ、新図書館で拡充が必要な機能・サービスを以下のとおり整理

- ① **交流機能（案）**：立ち寄りやすい雰囲気でも世代の交流を促し、本や活動との偶然の出会いを誘発
- ② **一般コーナー機能（案）**：図書館本来の市民の知と情報を集積し、くつろいで読書できる環境を提供
- ③ **伊東市情報センター機能（案）**：伊東市の歴史や文化を知ることができる情報や資料を発信・提供
- ④ **児童コーナー機能（案）**：子どもや親子連れが利用しやすく、楽しみながら読書できる環境を提供
- ⑤ **ティーンズコーナー機能（案）**：中高生のニーズに沿った幅広い資料や学習環境を提供
- ⑥ **生涯学習センター機能（案）**：従来の機能に加えて市民のクリエイティブな活動を可能とする環境を提供
- ⑦ **ICT機能（案）**：利便性向上・運営コスト削減・感染症対策等に向けてセルフ化・デジタル化を推進

市全体の図書館サービス案

- ◆ 市内全域への図書館サービス提供に向け、新図書館を拠点とした新たな図書館サービス網に必要なサービス案を以下のとおり整理

- ① **市内各施設でのサテライトサービス（案）**：返却ポスト・サービスコーナーの設置、
伊豆高原駅へのサテライト図書館設置
- ② **アウトリーチサービス（案）**：移動図書館拡充、宅配サービスの提供、出張読み聞かせ等の開催
- ③ **地域連携サービス（案）**：民間図書館・商店との連携、屋外型イベントの開催
- ④ **新図書館へのアクセス強化（案）**：十分な駐車場の確保、新図書館へのシャトルバスの運行
- ⑤ **ICT活用による遠隔地へのサービス（案）**：電子図書館の導入、地域資料のデジタル化、SNS等での情報発信

伊東市新図書館コンセプト

『夢と未来を育む図書館』～ひとりひとりの創造拠点～

- ◆ 「国際観光温泉文化都市」伊東市の知・文化・歴史を収集記録し、内外に発信し続けることで、シビックプライドの醸成及び文化や知の発展に寄与するとともに、伊東市の未来を担う子どもや今を担う大人ひとりひとりが活躍し、交わりながら、自身の夢と未来を育むことができる創造拠点として機能
- ◆ 「この図書館があるから伊東市に行ってみたい、住んでみたい、住んでいたい」と思われる図書館づくりを推進

蔵書目標

- ◆ 目標蔵書冊数=33.3万冊程度（「望ましい基準」及び令和7年度の推計人口から算出）
- ◆ 児童書割合=25%（83,250冊）（人口7万人前後の同規模自治体の平均値から算出）
- ◆ 蔵書に対する閉架率=50%程度（約16.7万冊程度）

6 施設面積の検証と機能配置案の検討

施設面積の検証

- ◆ 同規模自治体の平均及び「望ましい基準」から、図書館部分の面積目標は3,000～4,000㎡程度に設定
- ◆ 生涯学習センター機能や新たな機能と組合せ、「①新たな機能を全て入れ込んだ案（7,500㎡）」、「②図書館・生涯学習センター機能と新たな機能を融合した案（6,000㎡）」、「③各スペースを多目的に活用した案（5,000㎡）」の3パターンを設定し、諸室面積及びメリット・デメリットを右表のとおり検証

表 3 パターンの想定面積及びメリット・デメリットの比較

項目	①全て入れ込んだ案	②融合した案	③多目的に活用した案
面積合計	7,500㎡	6,000㎡	5,000㎡
一般図書コーナー	1,800㎡	1,800㎡	1,600㎡
児童図書コーナー	850㎡	850㎡	800㎡
バックスペース	1,350㎡	1,350㎡	1,200㎡
生涯学習コーナー	1,550㎡	1,300㎡	1,000㎡
新たな機能	1,950㎡	700㎡	400㎡
建設費	△	○	◎
維持費	△	○	◎
融合性	△	○	○
座席数	○	○	△

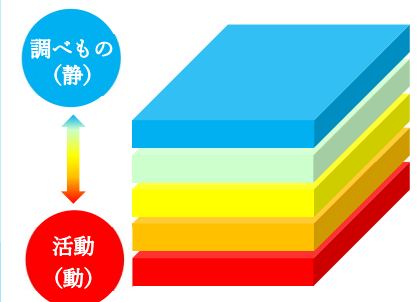
各フロアにおける機能配置案の検討

- ◆ 十分な駐車場の確保や屋外スペースの利用を考慮し、4～5階程度の施設を想定
- ◆ 3パターン中「②図書館・生涯学習センター機能と新たな機能を融合した案」をベースに、スペースのつながりやサービス内容、フロアごとの面積等を考慮し、5フロアでの具体的な構成（案）を下表のとおり検討

表 設置を想定するスペース

フロア名	設置を想定するスペース名
交流機能、生涯学習センター機能を有するフロア（案）	ワークショップスペース（第2多目的室）/音楽スタジオ/[書架]音楽関連本/小ホール（映画館・プラネタリウム）/カフェ・ショップ/印刷等創作室/P C創作ルーム/コワーキングスペース/[書架]創作関連本/[書架]アート・デザイン関連の一般書や絵本/ギャラリー/ラウンジスペース/美術工芸室/情報発信交流スペース/予約本コーナー/移動図書館駐車場/[書架]新聞・雑誌コーナー/[屋外]テラス・足湯・スポーツ屋外施設
ティーンズコーナー機能、生涯学習センター機能を有するフロア（案）	学習室/ティーン閲覧室/[書架]ティーン資料/プレイルーム/グループ学習室/視聴覚資料コーナー/トレーニング室/第1多目的室/第3多目的室/第4多目的室/第1和室
児童コーナー機能を有するフロア（案）	キッズスペース/児童閲覧室/[書架]児童書/おはなし室/児童視聴覚コーナー/託児室/[書架]一般・子育て
伊東市情報センター機能を有するフロア（案）	地域資料閲覧室/レファレンスカウンター/郷土資料展示コーナー/対面朗読室/[書架]地域資料・参考資料/バックスペース（事務室、書庫、備蓄庫）
一般コーナー機能を有するフロア（案）	一般閲覧室/[書架]一般書/学習室

図 フロアごとのつながり



7 事業計画

施設整備費

- ◆ 今後の計画・設計策定に向け、3パターンの超概算工事費を右表のとおり算出
- ◆ その他、資料や家具・備品等を購入するための予算確保が必要で、特に図書を中心とした資料の購入は開館までの数年にわたって計画的に取り組むことが重要

表 3 パターンの超概算工事費（500千円/㎡で算出）

項目	延床面積	超概算工事費
① 全て入れ込んだ案	7,500㎡	3,750,000千円
② 融合した案	6,000㎡	3,000,000千円
③ 多目的に活用した案	5,000㎡	2,500,000千円

概算運営費について

- ◆ 施設規模の拡充や様々なサービスの提供を実現するため、現状より多くの運営費用がかかると想定
- ◆ 今後、市職員による直営方式のほか、民間活力の活用による指定管理者制度等による運営方式も検討

今後のスケジュール

- ◆ 令和6年度中の開館を目指し、令和3～4年度に基本計画及び基本・実施設計を策定した後、令和5年度に着工予定
- ◆ 業務の効率化のほか、計画・設計との内容の整合を図るため、基本計画及び基本・実施設計は一体的に策定